
待つ男

王紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

待つ男

【コード】

N1629E

【作者名】

王 紅

【あらすじ】

電車を待つ男と、そこに現れる女には、ある共通点があつて…

(前書き)

人生初の小説です。何分文章力に欠ける部分があるろうかと思いますが、読んで感想を頂けたら幸いです。

男は待っていた。

片田舎の駅には不釣り合いな、洗練されたスーツに身を包み、足には磨きあげられたブランド靴。ただ、目を閉じたままその時を待っていた。さっきの電車を見送ってしまったから、あと30分は来ないだろう。夕暮れのプラットホームには、男の影だけが長く伸びていた。

男は箱を取り出して耳元で振ると、空虚な音をたてて応える。空か……… 我ながら往生際が悪いと苦笑しながら覗き込むと、奥に一本だけ残っていた。最後の一本を大事そうにくわえると鞆の火を探そうとしたが、肝心の鞆が見当たらない。男は煙の代わりに深いため息を吐く。

「火、貸してあげよつか？」

急に背後から聞こえた声に驚かされる。若い、綺麗な女だった。無骨なシルバーのライターを差し出した女の袖口から、白くか細い腕が覗く。諦め切れていなかった男は、礼を述べつつ喜んで申し出を受けた。

「その代わりに、これ、もらって。私にはもう必要ないの。」

そう言って、箱を差し出した。そのライターもあげるわと、手をひらひらさせる。男は、自分ももう必要ないのだと断ったが、女はそれを巖として聞き入れなかった。もう、そうなることが決まってい

るのだと、言わんばかりに。

「貴方には必要だね。だって、電車は来ないもの。」

そう言つて、女の眼差しは線路の向こうへと流れた。いつの間にか、ホームの影も消え、ベンチの横には白い光がともる。

突然、駅舎が騒がしくなつて、駅員が慌ててこちらに走つて来た。何でも、前の駅で人身事故が起きて、不通になつたのだと聞かされた。田舎なもんだから、こんなこと滅多になくてねえとぼやく。暗くなつたし、田舎の単線では復旧に時間がかかるかもしれない。お客さん一人じゃタクシーも何だし、どうしますか、待ちますか？ 駅員が申し訳なさそうに訪ねる。

フツと小さく煙を吐くと、男は降参と言わんばかりに両手を上げて、少し笑いながら頭を振った。

「いえ…待つ必要がなくなつたので。」

男は傍らの帽子を拾い上げ、煙草の箱を片手に去つて行った。

(後書き)

別に小説を書く趣味がある訳ではなかったのだが、新年度に入って多発する人身事故に触発されて、いつも書いている日記がいつの間にか短編小説になってしまった。列車へ飛込む者の心情に思いを馳つつ、鎮魂の意味を込めて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1629e/>

待つ男

2010年10月18日15時43分発行